

令和8年度(2026年度)建設常任委員会管内視察の概要

- 1 視察日 令和8年(2026年)7月14日(火)
- 2 視察者 建設常任委員会(6名)
南部隼平(委員長)、前田敬介(副委員長)、城下広作、
坂田孝志、楠本千秋、河津修司

3 視察の概要

(1) 熊本天草幹線道路大矢野道路

本道路は、天草地域の活性化を図る「90分構想」の実現、災害時の代替路の確保及び地域間連携の強化を目的に、国土交通省と熊本県が整備を進める熊本天草幹線道路(全長約70km)の一部で、今年1月に、県が担当する「大矢野道路(同約3.4km)」の「新大矢野トンネル(仮称・同925m)」の本体工が完成し、現在、橋梁工事や改良工事などに取り組んでいる。



今回の視察では、大矢野道路の現在の整備状況等について、県天草広域本部から説明を受けた。

県天草広域本部から、大矢野道路については、中央帯1.5mを設けることになっており、設計速度が80キロで、供用時なるべくスピードが出るような道路として計画している、事業進捗率は、事業費ベースで80%、用地についても現在も85%まで進んでおり、今年度中に何とか用地のめどをつけたいと頑張っているとの説明があった。

(2) ナショナルサイクルルート候補地「あまいち」ゲートウェイ

ナショナルサイクルルートとは、自転車を活用して新たな観光価値を創造し、地域の創生を図るため、令和元年度に国が制定した制度である。

「あまいち」サイクルルートは、宇城市三角駅から天草市牛深港までを結ぶ全長150kmのサイクルルートで、ナショナルサイクルルートの指定を目指している。



今回の視察では、ルートの交通結節点及び基地(ゲートウェイ)となっているミオ・カミーノ天草において、施設の状況や指定の見込み等について、本庁道路保全課並びに施設の指定管理者である(株)KASSE JAPAN から説明を受けた。

本庁道路保全課から、「あまいち」は、今年3月23日に国交省から候補地として選定され、5月に審査委員による現地視察が行われており、近々に開催される審査会で認められれば、晴れてナショナルサイクルルートの指定となるとの説明があった。

(3) 令和7年8月豪雨被災箇所(急傾斜地崩壊箇所)

令和7年8月豪雨では、県央、県南、天草地域を中心に、土石流、がけ崩れなどの土砂災害が県内128か所で発生した。今回の視察箇所の久立地区でも、大規模ながけ崩れが発生し、がけ下の国道445号に崩壊土砂が流出、がけ上は避難指示が発令され、現在も避難指示が継続されるなど、甚大な被害が発生した。

今回の視察では、令和7年8月豪雨被災箇所(急傾斜地崩壊箇所)の復旧状況について、県宇城地域振興局からを受けた。

県宇城地域振興局から、当該箇所の復旧については、まず道路を守るという観点から、補強土壁工で止め、これが完成した後に、1:1.8の緩やかな勾配でこの部分を盛土し、斜面安定を図るということを考えている、補強土壁工は3月から着手し、この秋には完成する、その後、盛土工事のほうに入り、年度末までの完成を目標に鋭意努力しているとの説明があった。



(4) 令和7年8月豪雨被災箇所(県道被災箇所)

令和7年8月豪雨では、県管理の道路施設で、180か所の災害が発生した。今回の視察箇所の一般県道囲砥用線でも、一級河川緑川水系筒川との兼用護岸の崩壊や流出が発生し、全面通行止めとなっている。本箇所は昭和63年、平成19年、平成28年に続き、今回で4度目の被災であり、「再度の被災はさせない」という考えのもと、道路のかさ上げなどを含めた質的改良を加えた復旧を図ることとしている。



今回の視察では、視察箇所的一般県道囲碁用線の復旧状況について、県宇城地域振興局からを受けた。

県宇城地域振興局から、実に今回が4回目の道路流出になっており、過去に何度も被災していることから、絶対被災しないというところを目指すため、大型ブロックや道路のかさ上げでの改良復旧を行うこととしている、再来年の完成に向けて進めていこうと考えているとの説明があった。